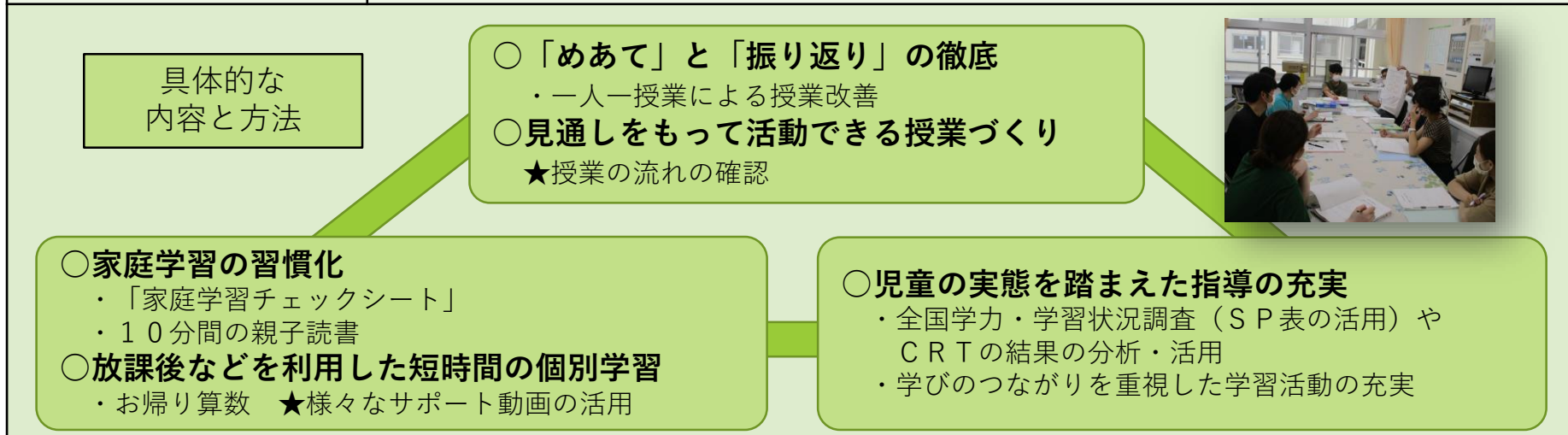


A 小学校の取組

学校の特色	<ul style="list-style-type: none">・児童は落ち着いて授業に臨み、与えられた課題に一生懸命取り組んだり、静かに板書を写したりすることができる。教員との人間関係も良好である。・教員間の協働性は高い。「はばたく群馬の指導プランII」を基に基本的な授業づくりのスタイルはできているが、それらが児童の見通しや学びの深まりにつながらない場合もある。
(全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙より)	<ul style="list-style-type: none">・「国語の勉強が好き」「算数の勉強が好き」という回答へのポイントが県平均よりやや低い。・「学校の授業時間以外に、普段、1日当たり、1時間以上、勉強している。」児童の割合が県平均より低い。
目指す児童の姿と 学力向上の基本方針	1年目【学ぶ意欲をもち、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けた児童の育成】 2年目【問題解決に向け、主体的に取り組む児童の育成】 <ul style="list-style-type: none">・児童の学習意欲の向上を目指した授業改善を進めるとともに、それぞれの取組の共有により教員の指導力の向上を図る。・児童が自ら学習に取り組む習慣を身に付けられるような手立てを講じる。・児童の学力、学習環境、生活習慣等の状況を客観的に把握し、指導に生かす。



成果

- ・「めあて」と「振り返り」の徹底や「ワークシートの工夫」「授業の流れの確認」等の手立てを講じたことにより、児童は見通しをもって取り組むことができ、主体的な学習に繋がった。

課題

- ・一人一人の主体的な学習に対応できるよう、個に応じた適切な支援の仕方や学習活動への不安や戸惑いを取り除くための手立てをさらに工夫していく必要がある。

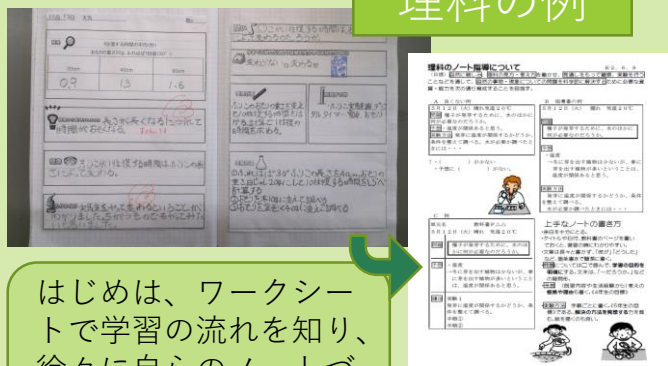
学び方が分かる

★授業の流れの確認

- ・「はばたく群馬の指導プランⅡ」を参考に、教員間で共通理解した、理科の「問題解決の過程」を各学年の実態に合わせた文言や説明で授業の流れを明示し、児童と共有する。

理科の例

- 問題・課題
- 予想・仮説
- 計画
- 観察・実験
- 結果
- 考察
- まとめ



はじめは、ワークシートで学習の流れを知り、徐々に自らのノートづくりに移行していく。

ノートの書き方例



奥の児童は結果の整理中

手前の児童は実験中

【問題解決の過程に沿って主体的に活動している姿】

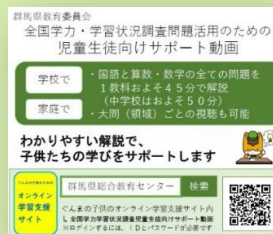
教員の声

- ・児童が学び方を身に付け、次の活動への見通しをもちながら主体的に学習を進めることができた。
- ・基本的な学習過程とともに、単元に応じた学びを精査し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた単元構想を考えていきたい。

★全国学力・学習状況調査問題のサポート動画の視聴

考え方が分かる

- 対象 6学年の児童
- 実施時期 令和2年9月15日(火)～9月29日(火)
- 担当 国語→教頭 算数→教務主任
- 方法 放課後学習(お帰り算数)の時間を活用し、児童生徒向けサポート動画を視聴させる。途中で停止して、考える時間をとったり若干の解説を加えたりする。



群馬県教育委員会作成のサポート動画のチラシ

動画を視聴している児童の様子

児童の声

- ・分かりにくかったところをもう一回確認することができて、理解が深まったのでよかったです。
- ・動画の最後にあるまとめのような大事なポイントをつかみ、しっかり学ぶことができました。

教員の声

- ・多くの児童が、サポート動画を見ることで理解を進めたり、考え方を学んだりすることができた。
- ・1人1台端末が導入されれば、それぞれの児童が自分のタイミングで視聴することができ、教員の業務軽減にもつながるのではと感じた。